CHIBA TATSUYA
埼玉県議会議員
絆・挑戦
千葉たつや
令和２年（2020年）秋号
県政報告
発行：埼玉県議会　自由民主党議員団
埼玉県議会議員
千葉達也県政調査事務所
加須市中央1-15-7

県議会9月定例会報告

新型コロナ専用仮設病棟の整備に着手

一般会計補正予算

【第7号】877億4,996万2千円

【第8号】21億3,961万1千円

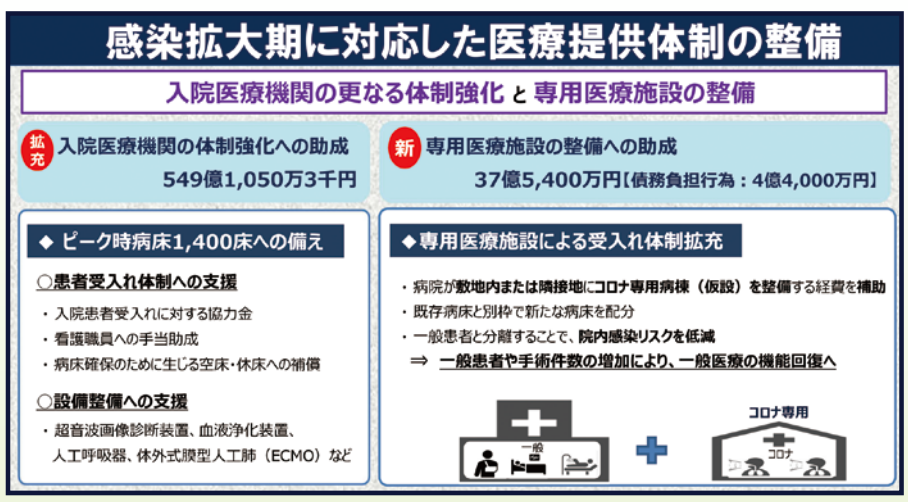
【第9号】414億7,054万5千円

前回補正に次ぐ大型補正予算で体制強化へ

県議会9月定例会は9月24日に開会し、一般会計補正予算【第7号】877億4,996万2千円、【第8号】21億3,961万1千円、【第9号】414億7,054万5千円の計上などを議決し、10月14日に閉会しました。（一般会計補正後累計 2兆3,083億9,014万4千円）

新型コロナウイルスの感染が警戒を要するレベルで続く中、補正予算【第7号】では専用医療施設の整備をはじめとする入院医療機関の体制強化のため、690億9,323万3千円の計上を決めました。具体的には、新型コロナウイルス感染患者専用の仮設病棟を運営する医療機関を公募し、その医療機関の敷地内や隣接地にプレハブを建て、約320床を確保していく計画です。また、入院医療機関への支援はもとより、人工呼吸器やECMO（エクモ）等の設備整備への支援もさらに強化していきます。

その他、県内景気が急速に悪化していることから、経済活動の回復と「新しい生活様式」への対応として、観光関連事業者への支援や中小企業のオンラインでの販路開拓への支援策等に6億89万3千円の予算が盛り込まれています。



新型コロナウイルス感染症対策特別委員会において、集中的な委員会審査を行っています。

私は、これまで県職員の皆さんが真摯に新型コロナに対応してきたことは理解しています。しかし、私どもの指摘事項への対応や改善策など具体的な提起が見受けらず、一抹の不安を禁じ得ません。そこで私ども自民党県議団は、６月定例会で特別委員会の設置を提案し、全会一致で可決しました。課題について整理・検証するとともに、今後に備え、県議会として対策を総合的に検討されるよう、審査・提言を行なってまいります。

今年度の所属委員会

環境農林委員会
経済・雇用対策特別委員会
新型コロナウイルス感染症対策特別委員会

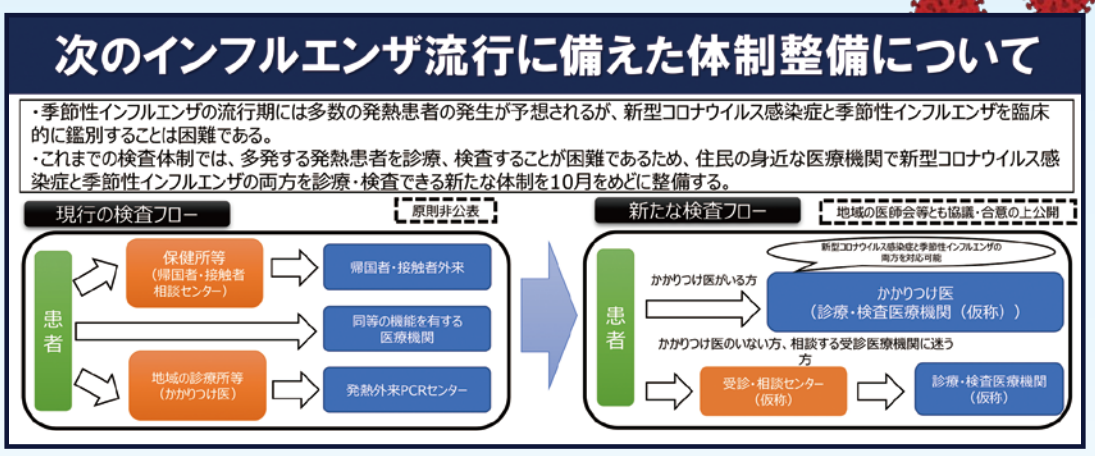
季節性インフルエンザの流行期に備えるため

高齢者のインフルワクチンを無償化へ

補正予算【第8号】では、新型コロナウイルスに感染すると重症化するリスクの高い高齢者などを対象に、インフルエンザのワクチン接種を無償化するために、21億3,961万1千円の予算計上を決めました。

無償化の対象となるのは65歳以上の高齢者と60歳～64歳の基礎疾患のある方などです。インフルエンザの流行がピークとなる1月～2月頃に備えるため、期間は10月～12月としています。

かかりつけ医での診療・検査体制を整備へ



県議会9月定例会では、季節性インフルエンザの流行期に備えるため、さらに補正予算【第9号】414億7,054万5千円の計上を議決しました。国による予備費の支出決定を受けての予算措置ですが、身近な医療機関で新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザの両方を診療・検査できる体制の整備をはじめ、重点医療機関の病床確保に対する助成費の増額、抗原検査費用の増額、生活福祉資金の特例貸し付け事業への補助金の増額が盛り込まれています。

新型コロナに関しては、これまで保健所に設置されている「帰国者・接触者相談センター」で対応していましたが、これからは発熱などを訴え、新型コロナかインフルエンザかの判断が難しい患者が増えると予想されるため、地域のかかりつけ医を窓口とすることで、より多くの患者に対応して検査できるようになります。なお、両方を診ることができる医療機関は、県が地域の医師会と協議の上指定し、随時発表しています。

県の財政状況も厳しくはありますが、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に全面的に取り組んでまいります。皆さまのご指導・ご鞭撻をより一層賜りますようお願いいたします。

環境農林委員会報告

9月定例会では環境農林委員会（10月8日）において、県産米の動向について2点質問させていただきました。

①生産振興と販売振興について

農業を取り巻く環境は、後継者問題、米価の不安定など、厳しい状況が続いています。この状況を踏まえて、現在の埼玉県農業技術研究センターにおいて、長い年月をかけて育成されたお米の生産振興と販売振興についてお伺いいたします。

平成4年に交配を行い10年をかけて「彩のかがやき」が、平成15年に交配を行い9年間かけて選抜し「彩のきずな」が育成されています。埼玉県の技術者が、長い年月をかけて英知と情熱をもって育成されたお米の、生産振興と販売振興をどのように実践されているか。また、強い埼玉農業を創造するために、これからの展開について合わせてお伺いいたします。

②酒米の品種改良の重要性について

埼玉県では、埼玉産酒米を使用して日本酒の金賞を受賞しています。加須市においても、地元で生産された酒米「五百万石」を使用した純米吟醸を、「さけ武蔵」を使用した特別純米酒を製造しました。さらには、酒米の最高峰といわれる山田錦を使用して純米大吟醸を完成させました。そして、その酒粕を利用してプリン・五家宝・石鹸など、沢山の加工商品の開発にも発展させております。過日、大野知事も【ふれあい訪問】で加須市の酒米と地酒協議会（株式会社釜屋）を訪問され、米作りからの一連の活動（6次産業化）について、まちづくりを含めて高く評価を頂いたところです。

今後、埼玉県において埼玉県の風土に適した「山田錦」の品種改良、あるいは「山田錦」を超える日本一の酒米を栽培することは、埼玉農業にとってとても有意義な事業であると考えます。しかしながら、品種改良等は生産者独自で、完成することはなかなか困難であると思います。埼玉県として、この事業について積極的に研究・開発を進めるべきと考えますが農林部のお考えについて質問させていただきます。

これから到来するであろう台風に備えて

本年7月に開設されました加須市の「災害対策情報収集室」を拝見させていただきました。昨年の令和元年東日本台風（台風第19号）を受けて開設されました。加須市の気象状況、利根川や中川の水位、利根大橋の交通状況などを、情報収集室でいち早く確認することができ、有事の際にはリモート会議も開催できるとのことで、これから到来するであろう台風に備え情報収集能力強化に取り組まれておりました。国や県においても、浚渫や樹木の伐採、堤防の強化の他に、即対応できる治水能力強化のため、ダムの事前放流が実施されております。予測雨量が基準降雨量を上回る場合、大雨が予想される最大3日前から放流作業が開始され、洪水調節容量に加えて利水容量の一部が事前に放流される事で、治水能力を高める施策が行われています。

新しい生活様式

新型コロナウイルスの感染予防のためには「新しい生活様式」を心掛けることで、感染症の拡大を防ぎ、自分の、みんなの「命」を守ることにつながります。

基本1　社会的距離の確保　離れて

お並びください

基本2　マスクの着用　マスク着用

（食事中以外）

基本3　手洗い　手指の消毒に

ご協力ください

●人との間隔はできるだけ2m空ける。
●会話をする際は可能な限り真正面を避ける。
●感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
※高齢者や持病があり重症化リスクの高い人と会う際は、体調管理を普通より厳重に。